

研究業績説明書

法人番号	77	法人名	熊本大学	学部・研究科等番号	40	学部・研究科等名	埋蔵文化財調査センター
------	----	-----	------	-----------	----	----------	-------------

1. 学部・研究科等の目的に沿った研究業績の選定の判断基準【400字以内】

本センターは、「熊本大学に所在する遺跡を発掘調査するとともに、出土した埋蔵文化財を記録・保存及び活用し、もって本学の教育・研究に寄与することを目的とする」組織であるため、研究内容が本センターの発掘調査に資するものであるという点が最も重要である。また、熊本県における研究であるという地域的特性も考慮される。これらを踏まえ、それが考古学上で高いレベルの研究であり、普遍性を備える研究成果であるという判断基準で研究成果を選定している。

2. 選定した研究業績

業績番号	細目番号	細目名	研究テーマ及び要旨【200字以内】	代表的な研究成果【最大3つまで】	学術的意義	社会的意義、経済的意義、文化的意義	判断根拠(第三者による評価結果や客観的指標等)【400字以内。ただし、「学術的意義」「社会、経済、文化的意義」の双方の意義を有する場合は、800字以内】	重複して選定した研究業績番号	共同利用等
1	3305	考古学	<p>科学的手法と考古学の基礎的手法により九州における縄文時代後晩期の石製装身具の特異性を明らかにする研究</p> <p>縄文時代の主要石製装身具(早期末～前期の球状耳飾、中期末～後期前葉の大珠、後期後葉～晩期初頭の小型玉類)について、独自に考案した計算式で形の変化を客観的数値で表現し、蛍光X線を用いた正確な石材同定、独自の年代決定法による丁寧な年代観の把握という作業を通じ、日本列島における九州縄文人の石製装身具の使用実態、地理的特性を明らかにしたものの。</p>	大坪志子2015『縄文玉文化の研究—九州ブランドから縄文文化の多様性を探る—』172頁、雄山閣、東京	S S		<p>縄文時代の主要三種の石製装身具(球状耳飾・大珠・小型玉類)に関する研究である。特に九州における縄文時代後晩期の小型玉類に関し、東日本ヒスイ文化起源説と朝鮮半島起源説があり長らく研究上の課題とされ、本著の核である。本研究では、九州および本州西部の資料について、科学分析による石材の悉皆調査と、「縄文時代後晩期」と一括されてきた資料の時期確定を徹底的に実施した。これにより、朝鮮半島起源説の不成立、九州の小型玉類は九州独自の玉文化と捉えられること、さらにこの九州の玉文化が東日本へ展開することを明らかにした。九州の当該期の石製装身具に関する類似研究は皆無であり、東日本の影響が強いとされてきた九州縄文文化が、逆に東へ展開したことを具体的に証明して日本列島の縄文文化の多様性の一端を示した意義は大きい。</p> <p>本書は全国学会誌等で3本の書評が発表され、高く評価されている。また、第10回九州考古学会賞も受賞した。</p>		